



画像：NASA 国際宇宙ステーション(ISS)から見た流星

2017年7月30日

ざ できるたみなみ

みずがめ座δ南

りゅうせいぐん きょくだい

流星群が極大！

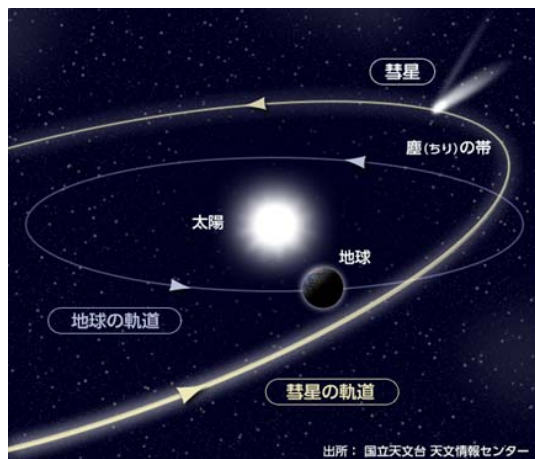
発行：福岡県青少年科学館

みずがめ座δ南流星群は、夏休みに入って最初に楽しめる天文イベントの1つです。みずがめ座は秋の星座で、7月の下旬頃は、20時頃ようやく東の空から昇り始めます。7月下旬から8月下旬はいくつもの流星群の活動(やぎ座α流星群など)が重なり、1年のうちで最も多く流星が見られるシーズンなのです。

7月30日は、みずがめ座δ南流星群が極大を迎えます。1時間に10個程度の流星が予想されます。夜半(午前0時前後)前には上弦前の月が西へ沈んでくれるため、好条件となるでしょう。極大日の前後数日は見やすくなっています。放射点は南東の方角です。しかし、どの方向にも飛ぶので、なるべく空全体を見渡しましょう。



画像：久留米市 7月30日 23時00分の空 ステラナビゲーターVer.10で作成



出所：国立天文台 天文情報センター

すいせい

『彗星と流星』の関係

流星は、彗星や小惑星の通り道を毎年同じ時期に地球が通過し、そこに残されていた“ちり”が地球の大気にとびこんで、上空100km前後で発光して見えます。流星の元になる“ちり”は、せいぜい0.1mmから1cm程度のものが多いと言われています。この、みずがめ座δ南流星群は、マックホルツ彗星によるものと言われています。